

機能性胃腸症とは

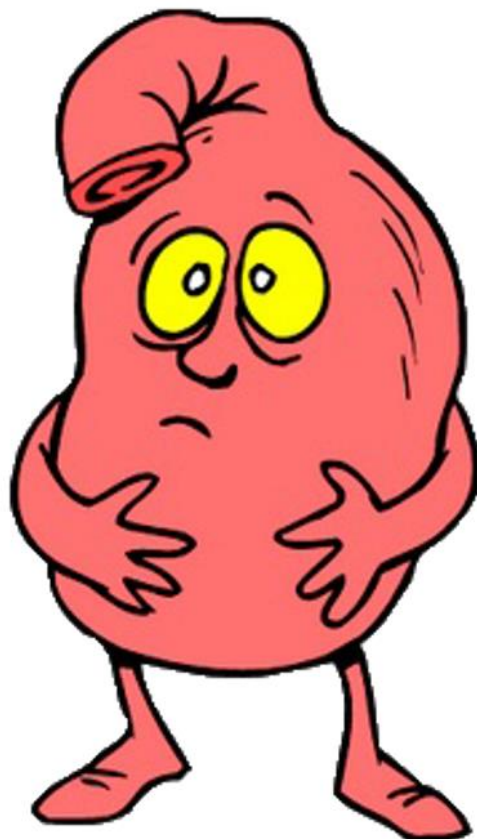
「機能性胃腸症（FD: Functional Dyspepsia）」は、検査で胃に潰瘍やがんなどが認められないのに、胃のもたれや痛みなどを訴える病気です。



◎ 「機能性胃腸症」の原因

1. 胃の拡張機能が低下

→ 早期膨満感（すぐにおなかいっぱいになる）



2. 胃の排出機能の低下

→ 胃のもたれが起こります。



3. 胃の知覚障害（知覚過敏）

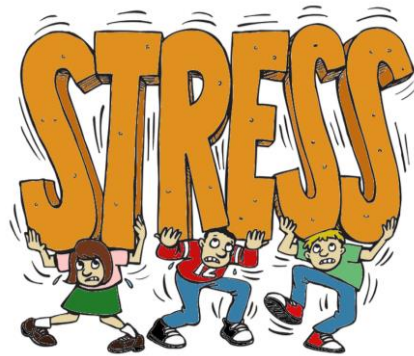
→ 胃の痛みが起こります。



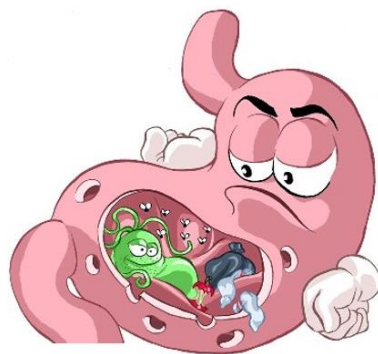
4. 胃酸分泌亢進



5. 心理的・社会的要因



6. ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)



◎ 「機能性胃腸症」の治療

機能性胃腸症の治療は、薬物療法などの内科的治療と食生活を含むライフスタイルの改善の両面から行ないます。

1. 薬物療法

- **消化管運動機能改善薬**

胃腸の運動機能を正常な状態に近づける作用を持ったくすりです。

- **胃酸分泌抑制薬**

胃を刺激する胃酸の分泌を抑えるくすりです。

- **抗不安薬**

不安や緊張など、ストレスに有効なくすりです。

- **ピロリ菌の除菌療法**

2. 食生活の改善

- 規則正しい食生活を心掛ける
- よく噛み、ゆっくり食べ、食べ過ぎない
- 消化にいいものを選んで食べる
- 睡眠を十分にとる
- ストレスをためないようにする

機能的ディスぺプシアの患者さんに好ましくない生活習慣

食生活・嗜好品	過食 (とくに脂っこいもの、甘いもの、刺激の多いものなどのとり過ぎ)
	早食い
	不規則な食生活 (欠食、深夜の食事など)
	喫煙
	過度なアルコール
日常生活	過労
	睡眠不足
	ストレス

アステラス製薬 なるほど病気ガイド より引用

<https://www.astellas.com/jp/health/healthcare/fd/basicinformation01.html>

当クリニックでは、機能性胃腸症の
診断・治療を積極的に行っておりますの
で、ぜひ一度ご相談ください。



補 足

◎ 「機能性胃腸症」のタイプ

1. 食後愁訴症候群

〈食後に起こるもたれ感を中心としたタイプ〉

- ・ 胃もたれ感がある
- ・ 食事をしてもすぐに満腹になる
（早期膨満感）

※愁訴（しゅうそ）は患者の訴えの意

2. 心窩部痛症候群

〈胸から上腹部に痛みを感じるタイプ〉

- ・ 心窩部に痛みを感じる
- ・ 心窩部にやけるような感じがある

※心窩（しんか）部はみぞおちのこと

◎ 「機能性胃腸症」の検査

症状にあわせて以下の中から選ばれます。

- 「内視鏡検査」
- 「腹部 X 線検査」
- 「超音波検査」
- 「血液生化学検査」
- 「胃排出能検査」
- 「便潜血検査」
- 「心理テスト」

◎ RomeIV分類（国際分類）

B1. 機能性ディスぺプシア（FD）

胃・十二指腸領域に起因すると考えられる、以下の症状のうちの一つ以上がある

- a. つらいと感じる食後のもたれ感
- b. つらいと感じる早期飽満感
- c. つらいと感じる心窩部痛
- d. つらいと感じる心窩部灼熱感

さらに、上部消化管内視鏡検査などで症状を説明しうる器質的疾患がない

そして、以下のB1aあるいはB1b、または両方の基準を満たすことまでが要求されている。

B1a. Postprandial distress syndrome (PDS)

食後愁訴症候群

少なくとも週に3日、以下の1つか2つを満たす

1. つらいと感じる食後のもたれ感
2. つらいと感じる早期飽満感

かつ、上部消化管内視鏡検査などを含むルチーン検査で、症状を説明しうる器質的、全身的、代謝的疾患がない

B1b. Epigastric pain syndrome (EPS) 心窩部痛症候群

少なくとも週に1日、以下の1つか2つを満たす

1. つらいと感じる心窩部痛
2. つらいと感じる心窩部灼熱感

かつ、上部消化管内視鏡検査などを含むルチーン検査で、症状を説明しうる器質的、全身性、代謝性疾患がない